

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆日経平均株価終値4万8580円、最高値更新 ソフトバンクGが演出

・9日の東京株式市場で日経平均株価は反発し、終値は前日比845円45銭(1.77%)高の4万8580円44銭と過去最高値を更新した。株高をけん引したのはソフトバンクグループ(SBG)だ。前日にスイスの重電大手のロボット事業を買収すると発表し、人工知能(AI)ロボットの開発競争に名乗りを上げた。

◆9月の街角景気、5カ月連続上昇 基調判断は据え置き

・内閣府が発表した9月の景気ウォッチャー調査(街角景気)は現状判断指数(DI、季節調整値)が前月比0.4ポイント高い47.1だった。5カ月連続で上昇した。家計動向関連や雇用関連が押し上げた。基調判断は「持ち直しの動きがみられる」との見方を据え置いた。家計動向は0.3ポイント上昇した。住宅や小売りが好調だった。

◆7～9月実質GDP、年率1.35%減予測 日経センター10月調査

・日本経済研究センターがまとめた民間エコノミストの経済見通し「ESPフォーキャスト調査」によると、7～9月期の実質GDP(国内総生産)の予測平均は前期比年率で1.35%減となった。前月調査(1.11%減)から下方修正となった。米国の関税政策の影響で輸出が全体を下押しするとみる。輸出の予測平均は前期比1.43%減と見込む。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆ヤマト運輸、置き配荷物の盗難に保険 損保ジャパンと連携

・ヤマト運輸は玄関前に荷物を届ける「置き配」で、荷物が盗難被害に遭った場合の補償が付いた火災保険を販売すると発表した。損害保険ジャパンなどと連携する。置き配は配達効率の改善につながる一方、盗難リスクから敬遠する利用者もいる。万が一に備えることで不安を和らげる。「クロネコ『家財もしも保険』」の取り扱いを始めた。

◆廃リチウムイオン電池の分別収集を検討 環境省、家庭・企業共に対象

・環境省は廃棄されるリチウムイオン電池について、他のゴミと分別して収集する制度を検討すると明らかにした。家庭から出る一般ゴミと企業などが出す産業廃棄物の両方が対象となる。ゴミに混入したリチウムイオン電池が原因の火災が増えていることに対応する。2025年内にも実施の方針をとりまとめる。

◆給湯器製造廃材を土壌改良材に再生 ノーリツとwelzoが協業

・グループ会社のエスコアハーツと、農園芸資材を手がけるwelzoグループのサンアンドホープと協業し、給湯器製造時に廃棄されていた寒水石を再資源化。園芸・農業向けのミネラル土壌改良材「ゼオカル」として商品化し、販売を開始。寒水石は「エコジョーズ」などに搭載される中和器で使用される中和剤。廃棄量の増加が懸念されていた。

《 注目商品 》

■パナソニック 健康を支援するバスルーム、電気式床暖房+平手すりを搭載

・システムバスルーム「BEVAS(ビバス)」から、電気式床暖房を備えた「ヒートセーフstyle」の提案を開始。超高齢社会における住まい手の安心と健康に対応するため、浴室空間を「住宅の中でできる生活習慣支援づくり」の場としても定義。安心感やあたたかさをテーマに開発。



■ABC商会、アクリル系人大製洗面カウンターに新型5種類

・アクリル系人工大理石製の洗面カウンターの品揃えを拡充。「アソートカウンター」に3種類の新型を、「バイオマーブルシリーズ」に2種類の新型を追加した。どちらも加工性に優れたアクリル系人工大理石・コーリアンを採用。



■YKKAP、リフォーム用樹脂製内窓「ウチリモ 内窓」

・引違い窓の見込みを薄くし、さらに枠を室内側に持ち出す「枠持ち出し納まり」により、窓額縁の取り付け寸法が最小47mmあれば、ふかし枠なしで取り付け可能なリフォーム用樹脂製内窓。ふかし枠と補強材が不要なため意匠性が向上し、費用も抑えることができる。

